

## 1470 | 博物館実習

3 単位（通信授業 1 単位・面接授業 2 単位）

神野善治教授、新見隆教授、榎本寿紀講師、嘉藤笑子講師、岡しげみ講師

## 授業の概要と目標

博物館に関する科目において学習した内容を総合的に点検・整理する機会とするとともに、資料管理・展覧会の企画・運営・展示・普及に関わる各種業務を模擬的に体験することを通して、博物館活動や学芸員の職務に対する実際的な理解を深め、あわせてワークショップ活動やアウトリーチ活動など、美術館が施設以外の場へと展開している事業についてファシリテーターの立場でプログラム企画に取り組むことによって体験を積む。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

展覧会企画案の作成を課し、添削指導を行う。

## ○面接授業課題

学内実習として大学美術館および民俗資料室の施設と業務内容を理解した上で、ワークショップ等教育普及活動の手法を体験するとともに、資料データベースの活用法を修得する。また館園実習として大学美術館および民俗資料室での所蔵資料調書作成、資料貸借業務と梱包作業等の訓練を踏まえ、展示室での資料展示の実習までを行う。

\*課題については学習指導書『博物館実習 平成 29 年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業]

・(学修報告と添削指導) 学内実習(見学実習) 該当 テーマ検討/展覧会の領域決定/対象館の所蔵資料調査/展覧会会場の空間条件把握/対象館の基礎情報把握/対象館の展示状況調査/所蔵資料の詳細調査/展覧会趣旨・目的の構想/展覧会の章立てと展示作品確定/展示作品のデータ整理/作家履歴の調査/会場配置と表示構成検討/関連事業立案/企画書の作成 等

## [面接授業]

・学内実習(事前指導) 該当 オリエンテーション/実習の目標とテーマ/大学美術館の沿革と所蔵資料 等  
 ・学内実習(実務実習) 該当 ワークショップの立案・実践に向けた演習/ワークショップの計画/アウトリーチ活動の現状/ワークショップ企画の発表と講評指導/今日の美術と社会をめぐる状況/実習全体についての質疑応答 等  
 ・館園実習 該当 作品調書の作成/資料の梱包/資料借用の手続き/美術館の広報活動/展覧会の企画/展示作品の解説/展示方法の演習/保存科学と修復/展覧会企画の発表と講評指導 等  
 ・学内実習(事後指導) 該当 文化遺産の保存/収蔵品管理の諸問題/美術館・学芸員に関するディスカッション 等

## 成績評価の方法

通信授業のレポートの考査を加味した面接授業で評価する。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 文化支援コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」p.049の特例を除く)。

[備考] 芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目。  
 芸術文化学科文化支援コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の3年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

## 教材等

学習指導書:『博物館実習 平成 29 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年)

## その他

レポート作成の際は、課題の趣旨をよく理解するために、よく学習指導書を読むこと。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

※この授業科目の面接授業(スクーリング)を受講する以前に、本学が定める必修科目8単位を修得している場合のみ、本学における「学芸員課程単位修得証明書」の発行対象となる。